

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I.その人らしい暮らしを支える

(1)ケアマネジメント

(2)日々の支援

(3)生活環境づくり

(4)健康を維持するための支援

II.家族との支え合い

III.地域との支え合い

IV.より良い支援を行うための運営体制

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町3丁目8番15号
訪問調査日	平成29年6月29日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 10名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	2名	

※事業所記入

事業所番号	3870800202
事業所名 (ユニット名)	グループホームレオナ 2階ユニット
記入者(管理者) 氏名	2階管理者 表内咲子
自己評価作成日	29年 6月 1日

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
“愛媛県地域密着型サービス評価”

(別表第1の2)

【事業所理念】 自分らしく生きていく。・生きる喜びを感じられる生活にちていきたい・ありがとうが言い合える心豊かな関係を作りたい・個性を尊重し人の嫌がることをしない・地域社会の一員になる	【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】 本人の希望や家族の要望を取り入れた介護計画にしてい。具体的にすることで 介護計画がより明確に身近になり目標として取り組んでいます。	【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 穏やかで物事に真摯に取り組む姿勢の管理者の下、快い優しい言葉かけやさりげない声かけが行われ、落ち着いた利用者の笑顔が見られる。希望や生きる喜びの感じられる事業所には、心豊かで感謝に満ちた空間が広がっている。利用者を尊重し、職員同士仲良く助け合う姿は見ていて微笑ましく、明るく上品な介護を印象付けている。
--	--	--

評価結果表

【実施状況の評価】

◎よくできている ○ほぼできている △時々できている ×ほとんどできていない

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I. その人らしい暮らしを支える									
(1) ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	入所時、日々の会話の中で、本人の希望や思いを聞き出せるように努めている。	◎	/	◎	懐かしい思い出話を聴く中で、本来の思いや望みの話につながる事が沢山ある。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	職員本位にならないよう、常に表情や行動から思いを汲み取れるよう心がけている。	/	/	/	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	面会時に本人の思いを聞けるようなコミュニケーションを図り、情報を得ている。	/	/	/	
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	アセスメントを行い記録を共有している。	/	/	/	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	本人を主体として考え、コミュニケーションを図りながらアセスメントを行っている。	/	/	/	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	これまでの生活歴を把握し、家族や関係者との何気ない会話から情報を収集し、職員間で共有している。	/	/	○	家族や友人そして、利用者の些細な言葉や職員が気づいたことも含め把握している。不安に思っていることも大切に聞いている。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	身体、認知症の状況を把握し、一人ひとりに合った暮らしが出来るよう支援している。	/	/	/	
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	○	入所時の聞き取りや日常の中で、言葉や行動、表情等の変化を職員間で共有している。	/	/	/	
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかわり等)	○	状況からくるよう要因について、職員や家族とも話し合い、改善出来るよう努めている。	/	/	/	
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	○	申し送りや記録を通して、一人ひとりの生活リズムや変化の把握に努めている。	/	/	/	
3	チームで行うアセスメント (※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	カンファレンスなどで意見交換し、本人を主体として検討している。	/	/	○	常に利用者本位の視点で、3か月に1回の介護計画見直し時も含め、意見を出し合いチームで共有している。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	○	状況に応じて対応出来るよう、職員で話し合い家族等の協力も得ている。	/	/	/	
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	○	検討した内容から介護計画書を作成している。	/	/	/	
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	本人や家族に馴染みの暮らしや思いを聞き、日々の生活に取り入れている。	/	/	/	利用者が職員に直接話せないことも、月1回訪問のある市のふれあい相談員を通じ情報を得て、介護計画の作成に活かしている。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	本人の希望を尊重しつつ、家族や関係者の意見を取り入れた介護計画を作成している。	○	/	○	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	生活リズムを整えつつ、慣れ親しんだ暮らしを取り入れたレクリエーションに参加できるように作成している。	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	○	家族と電話で話す。散歩の際、地域の人たちとふれあうようにしている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	職員全員が介護計画書に目を通し、内容を把握、共有している。	/	/	○	ケアチェック表に計画書をファイルし確認している。記録内容は毎月要約して利用者の状態についてまとめ、アセスメントとして利用している。特に、利用者の言葉は言われた通り記録に残しており、役立っている。入居が長くなると、家族より職員の方が利用者個々の様子を把握できており、がよくわかる。感じて知ったことを思案し、良い方向になるよう考え記録している。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	定期的にあセスメントを行い記録し、次の介護計画書に繋げている。	/	/	○	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	○	個別の介護記録を毎日作成している。	/	/	○	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	○	些細な気づきや工夫を記録し、情報を共有している。	/	/	○	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じた見直しを行っている。	○	基本三ヶ月に一度モニタリングを行い、計画を立て直している。	/	/	○	利用者が何を求め必要としているか考え見直している。記録を基に、月1回まとめている。緊急性の高いものは、即時話し合い変更している。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	○	申し送りを通して職員間で現状を確認している。	/	/	○	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	変化が見られた場合、話し合う機会を持ち、現状に合った支援を行っている。面会時に家族との会話の中での話を取り入れる事もある。	/	/	○	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	定期的話し合う機会をつくっている。	/	/	◎	母体医療機関の医師も参加のケア会議を定期的開催し、職員で話し合っており、不参加の職員には職員2名で申し送りを行い、伝達事項の漏れがないよう徹底し職員全員で共有し、利用者本位のケアのため万全を期している。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	常に自分の思いが言い合えるようなコミュニケーションを取っているため、会議でも相手まかせにならないような意見交換を行っている。	/	/	/	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	○	出来るだけ参加してもらう事を考え、申し送り後ホームで行っている。	/	/	/	
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	○	参加出来なかった職員への申し送りは、伝え忘れがないよう職員2名で行っている。	/	/	◎	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	○	朝、夕と申し送りし、伝達、共有している。	/	/	◎	職員の交替時の申し送りがきちんと行われている。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	重要な情報は申し送り時に全て伝達するようにしている。	○	/	/	
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切に支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	○	利用者の希望を会話の中から導き出し、出来るだけ叶えられるよう努めている。	/	/	/	「飲み物は何がいいですか?」とか外食のメニューの選択など機会を見て自己決定する場面を作っている。「一緒に喜び笑い合える人とのつながりを大切にする」ユニットの理念に沿って、テレビを見ている時も食事中も声かけを欠かさず生き生きとした生活を支援している。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	その日着る服、おやつ、レクリエーションなど、自分で選択、自己決定してもらっている。	/	/	○	
		c	利用者が思いや希望を表現できるように働きかけたり、わかる力に合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	○	利用者が希望や思いを伝えられるよう声かけや質問を工夫し、自分で決め、納得してもらっている。	/	/	/	
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切に支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	全体の生活リズムは守りつつ、利用者の生活歴に応じたペースで過ごせるよう支援を行っている。	/	/	/	
		e	利用者の活き活きした言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉かけや雰囲気づくりをしている。	○	楽しく過ごせるように常に表情を見ながら言葉かけを行うよう努めている。	/	/	○	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	わずかな表情の変化、眉の動き、口元の絵んかなどで本人の気持ちをくみ取る努力をしている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切に言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	○	倫理綱領をスタッフ室に貼り、常に人権に配慮した対応が出来るよう心がけている。	◎	◎	◎	職員は接遇の研修を受け、プライバシーの確保についてもよく理解し、○○と思われます。と理解し、利用者を尊敬するかかわりが続いている。ゆっくり優しい口調で上品に感謝の気持ちを込めて声かけしている。出入口を解放したままの方が落ち着く人もいるが、基本的にはノックして入室している。	
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉かけや対応を行っている。	○	利用者の気持ちを考え、いやな思いをさせないよう言葉を選んだ声かけ、さりげない介助を行っている。					○
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮ながら介助を行っている。	○	プライバシーを確保し、不安や羞恥心を和らげる声かけをしつつ介助している。					
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	居室に入る時は必ず利用者に声をかけ、同行もしくは許可を得ている。					○
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	プライバシー保護に関する取り組み内容をスタッフ室に貼り、常に意識している。					
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けてもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	利用者から教えてもらう事も多くあり、常に対等の立場である。些細な事でも感謝の言葉を述べるよう心がけている。				利用者同士の相性を大切に、心地よく過ごしてもらえるような席の配置をするなど配慮している。	
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	利用者同士が協力し合える機会を持ち、取り組んでもらっている。					
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	○	利用者の性格や利用者同士の関係性、相性などを把握し、トラブルのないよう配慮している。利用者同士が会話出来るよう仲介したり、座席の位置を工夫し、皆が和やかに過ごせる雰囲気を作っている。					◎
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	当事者が気持ちを切り替えられるよう声かけや気分転換を図ったり、必要に応じては居室で過ごしてもらうなど、ユニット全体への気配りを心がけている。					
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	○	入所時のアセスメントや本人から聞いた人間関係を職員全員が把握している。					
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	入所時のアセスメントや本人、家族から聞いた話から、職員全員が把握している。					
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	○	近況報告の手紙や行事案内のハガキを出したり、外出時に使用者の馴染みの場所に出かけたりしている。また、知人が面会に来られた際にはゆっくりお茶を飲み過ごしてもらっている。					
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	面会時には居室でゆっくり過ごしてもらい、笑顔で応対し気軽に来てもらえるような雰囲気作りを心がけている。					

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない) (※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	○	天気の良い日は積極的に散歩に出かけられるよう取り組んでいる。その際、行く方向を利用者に決めてもらい、近くの商店で買い物をする事ある。歩行困難な利用者には車椅子を利用してもらう等、戸外に出る利用者が固定化しないようにしている。	○	◎	○	近くの寺社や無人の野菜販売所への買い物、園芸店へ散歩に出かけている。季節感を大切に車椅子での外出にも力を入れている。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	○	地域の方々には温かい言葉を頂きながら安心して外出できています。	/	/	/	
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	○	車椅子を利用し、散歩や日光浴を楽しんでもらっている。	/	/	○	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	○	定期的に車での外出を行っている。	/	/	/	
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	利用者の状態、症状について職員間で話し合い、より良いケアが行えるよう意見を出し合って実行している。	/	/	/	「出来ること出来ないシート」には、担当職員が利用者自身の立場で私のできること、できそうなことを記録し、共有し活かしている。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	日常生活の中で体力維持のための運動を取り入れたり、体操、口腔体操などを毎日行っている。	/	/	/	
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	利用者が出来ること、出来そうなことを職員が把握し、そつと見守る、または一部介助している。	○	/	○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	利用者の趣味、特技を職員全員が把握している。	/	/	/	元の職業や特技や趣味を知り、出番や役割りにつなげている。運営推進会議では、利用者からおふくろの味など昔の思い出話を聞き、他の参加者には好評であった。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	利用者の趣味、特技を活かしたレクリエーションを取り入れている。(唄、編み物等)	◎	◎	◎	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	○	地域のお祭り等に参加できるよう支援している。	/	/	/	
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	利用者のお気に入りの服や毎日の整容の仕方など、職員全員が把握している。	/	/	/	ひげそりはまず自分でさわって、鏡を見て納得してもらってから行っている。おしゃれな人は、いろいろカタログと一緒に見て、好みの柄を選び新しいものに取り換えている。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるように支援している。	○	入所の際、馴染みの服、櫛、鏡や化粧品道具を持参され、靴やエプロンを購入する際には本人に好みのもを選んでもらっている。	/	/	/	
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	更衣や整容の際、職員が声をかけて自分で決定出来るよう導いている。	/	/	/	
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせたその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	行事の際は化粧をするなど、おしゃれを楽しめる工夫をしている。	/	/	/	
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にさりげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	利用者の気持ちに配慮し、さりげなく支援している。	◎	◎	◎	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	○	現在は特に希望される方がいない為、訪問の理容師をお願いしている。	/	/	/	
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	毎日更衣、整容を介助している。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	職員全員が理解したうえで一人ひとりに合った支援を行っている。	/	/	/	利用者は下準備や食器を拭くなどできる作業を手伝っている。献立は利用者の知恵も借り、味付けの好みも利用者をお願いしている。たけのこ・空豆・びわなどその季節を感じさせる食材を潤沢に使い、利用者の嗜好に合わせた内容にしている。軽くて持ちやすいもの、茶碗のサイズを変えたいときや破損した時は、家族の協力を得ている。優しく、明るく、穏やかに、利用者が手伝ってくれたことを盛んにほめ、感謝を伝え、見守りながら食事している。体調の良い時は、共有空間で過ごすこともあり、調理の様子を見たり、においを感じたりしている。ほかの利用者に気を付けて話しかけてもらい、重度な状態でも食事を美味しくいただくことができる。1週間を1単位にメニューを考え、バランスのとれた内容になるよう工夫している。手間をかけた心のこもったメニューを心掛けている。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	○	出来ることは職員が側につき、一緒に行っている。	/	/	◎	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	職員とともに行うことで出来ることが多くなり、達成感、喜びを感じてもらっている。	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	職員全員が把握している。	/	/	/	
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	○	日々の会話の中で昔を感じさせるものや季節に合った食材を選び、利用者とともに食事、おやつ作りを行っている。	/	/	◎	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	○	利用者一人ひとりの身体機能に合わせ、出来るだけ常食を心がけている。刻み職の場合でも、個々によそい色どり等も工夫している。	/	/	/	
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	○	入所の際、今まで使い馴れた茶碗やコップ、箸等持参し、その後も状態に合わせた食器を使用してもらっている。	/	/	◎	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	○	職員も利用者と同じ食卓を囲んでいる。会話がはずむ中、さりげないサポートが出来るよう心がけている。	/	/	◎	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	日中、離床が出来る時は食卓で過ごされ、カウンター越しに聞こえる料理の音や匂いを感じられるよう配慮している。	○	/	○	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	食事量や水分量を一日通して把握できるよう記録している。	/	/	/	
		k	食事量が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	ゼリー飲料にし、回数をふやしたり利用者の好物に切り替えたり、食事場所を変える。	/	/	/	
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	食べ残しが多かったりするとその都度話し合いをしている。偏りのないように配慮している。	/	/	○	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	○	衛生管理は常に気をつけています。	/	/	/	
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	○	職員は口腔ケアの必要性を理解した上で支援している。	/	/	/	口腔アセスメント票には①歯の状態と口腔衛生からのアセスメント②口腔衛生自立度からのアセスメント③食事状況からのアセスメントなど細かく把握している。食後の歯磨きは声かけし、できない人は職員が介助している。入歯の手入れも欠かさずに行っている。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	口腔ケアアセスメントを作成し、利用者一人ひとりの口腔内の状況を把握している。	/	/	○	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	○	運営推進会にて歯科医、歯科衛生士等から口腔ケアについて学び、日常の支援に活かしている。	/	/	/	
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	利用者が手入れ後、職員が再度手入れ行う。義歯を定期的に洗浄している。	/	/	/	
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	○	起床時、入床時、毎食後のハミガキ、口腔ケアを行う中で、異変にいち早く気づけるよう職員が付き添い支援している。	/	/	○	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医に受診するなどの対応を行っている。	○	本人や家族の希望で、行きつけの歯科を受診されている。協力歯科を受診される場合もある。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	運営推進会にて、業者の方から紙パンツやパットについて学び、実際に着用し使用感を体験したり、不快感や身体に与えるダメージについて理解し、支援している。	/	/	/	運営推進会議に企業の専門家を講師に招き、パットおむつの適切性について話を聞くなどし、一人ひとりに適した支援をしている。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	便秘から身体に及ぼす影響について理解している。	/	/	/	
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	○	本人の排泄習慣を記録し、把握、共有している。	/	/	/	
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	○	尿意、便意の無い方もトイレに座ってもらい、トイレでの排泄が出来るよう促している。失禁がある利用者は、その人に応じたパットを使用している。	◎	/	◎	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	運動をしたり、消火の良い食べ物をメニューに取り入れ、便秘改善に取り組んでいる。	/	/	/	
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	利用者一人ひとりの排泄パターンや兆候に合わせて声かけを行ったり、誘導、介助を行っている。	/	/	/	
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	おむつを使用するにあたり、本人の思いを尊重しつつ、家族とも話し合い、本人が無理なく使用出来るものを選択され使用されている。	/	/	/	
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	○	利用者の意思を尊重し、その時々状態に合わせて下着、おむつを選択し使用している。	/	/	/	
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	常に排便表をチェックし、個々の状態を把握して水分補給や運動など、自然排便に繋がる働き掛けをしている。	/	/	/	
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)。	○	定期的に入浴している。体調に合わせて希望通り入浴時間をとったり、好みの温度に調節する等支援している。	◎	/	◎	入浴は週2回(月・金)とし、好みの湯温、入浴時間になっている。汗かきの人や失禁時はきちんとシャワーで対応している。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。	○	利用者の状態を把握し、湯船にゆったりとした気分で入浴できるように支援している。	/	/	/	
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	利用者が出来る事は自ら行い、手が行き届かない事は支援している。	/	/	/	
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ち良く入浴できるよう工夫している。	○	気持ちよく入浴出来るよう、本人に合った環境作りやさりげない声かけを行っている。	/	/	/	
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	○	バイタルチェックを行うと共に、行動、動作、言動を常に把握する事に努めている。	/	/	/	
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	毎晩の睡眠状態から、一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	/	/	/	薬に頼らない方針で寝る前にホットミルクを飲んだり、家族差し入れのおやつを食べたりして安眠できるよう工夫している。投薬については医師の処方のもと行っている。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	安眠できる環境作りや体調、心身面にも配慮しつつ、日中の活動量を増やす等生活リズムを整えるよう取り組んでいる。	/	/	/	
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	出来るだけ薬剤の服用はせず利用者が安眠できるよう、職員で話し合い、医師とも連携して支援している。	/	/	○	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	利用者の意思や、声かけを行い、休息時間が取れるよう取り組んでいる。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	本人の希望にて電話や手紙のやり取りが出来るよう支援している。	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	○	手紙や電話が困難な利用者の思いを職員が代筆したり、近況がわかる電話をしている。	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	本人希望時、電話が出来るよう支援している。	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	届いた手紙等は住所等記録し、本人居室に飾ったり残している。	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力してもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	本人、家族とも話し合い、理解や協力をお願いし、繋がりが持てるよう支援している。	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	現在お金は職員が管理している(所持困難な為)。使用する意味や大切さを理解している。	/	/	/	
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につけている。	○	外出時には本人所持のお金を持参し、買い物している。正しく使用出来るよう支援している。	/	/	/	
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	○	買い物先では必ず職員が付き添い、正しく使用できるよう声かけを行ったり、理解や協力してもらえるようさりげない支援を行っている。	/	/	/	
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	○	本人、家族と話し合い、理解を得た上で希望にそった管理方法で支援している。	/	/	/	
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	本人や家族と話し合い、希望にそった支援を行っている。	/	/	/	
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	○	現在、金銭は職員で管理している。管理にあたりお小遣い帳を作成し、定期的に家族に確認してもらい、明確にしている。また、本人、家族の同意も得ている。	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々々のニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	利用者のニーズに応じられるように家族や職員間で話し合いを行っている。	◎	/	◎	臨機応変に利用者や家族のニーズに対し歩み寄りながら、会議等で協議し実現に向け取り組んでいる。
(3)生活環境づくり									
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に入出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	植物を植えたり季節感をだして 出入りしやすく工夫している。	◎	△	◎	隣が母体の医療機関となっており、簡単に気さくに出入りできる。作品を並べたり、本棚には数々の絵図や書物があり、立ち寄りたくなる。
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものしか置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていない等。)	○	昔ながらの家具や道具を置く、季節の草花や利用者が作った作品を飾る等、家庭的な雰囲気になるよう心がけている。	○	◎	○	居間の横が台所になっており、調理のにおいに利用者の食欲が増す。CDの曲が流れ、レクリエーションをしている。ベランダには、トマト・ピーマン・きゅうりが植えられ、風通しが良く、清潔感に満ち溢れている。心のこもった感動できるアイデア、工夫いっぱい飾りが沢山あり、どれをとっても丁寧で、深く心に残る作品ばかりである。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	毎日掃除をし、テレビや音楽の音量、証明の明るさを不快がないように調整している。	/	/	/	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	季節の行事に合わせた飾りをする、馴染みのある音楽をかける等、五感に働きかけ刺激になるものを取り入れている。	/	/	/	
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	テーブル席、ソファ、廊下のベンチ等、くつろげる場所を各所にもうけている。	/	/	/	
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないよう工夫している。	○	トイレ、浴室ともプライバシーは守られている。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
27	居心地良く過ごせる居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	家で使っていた家具を持ち込み、居心地良く過ごせるよう配置している。	◎		◎	天井が高く明るく広々としている。塗り絵・習字・鏡台・写真・手紙・時計があり、一人ひとりにとってほっとできる空間を作っている。
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	事故やけがに繋がりそうな物は置かないようにし、安全に生活出来るようさりげない見守りを心がけている。			○	「生活の自立」を目標とし、「できること」「わかること」をきちんと把握したうえで、職員は適切な声かけや誘導、見守りを行っている。
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	○	場所や使い方が分かるよう案内を貼り、かつさりげない見守りを行っている。				
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	○	利用者の近くに編み物セットや人形などを置き、気が向けばすぐに手に取れるようにしている。				
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらず心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらず印象のデメリット等)	○	職員は鍵をおかける事で利用者にも与える身体的、精神的苦痛を理解し、安全を確保しつつ自由な暮らしが出来るよう取り組んでる。	◎	◎	◎	職員は、鍵をかけることで利用者にも与える精神的苦痛等について共有しており、利用者が一人で外出しないよう見守っており、外出の際は職員と一緒に出かけている。また、家族には施錠を行わないケアの取組みや工夫等について説明し理解を得ている。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	○	家族から施錠の要望があっても、その弊害について説明し、施錠を行わないケアの取組みや工夫について話し合い理解を図っている。				
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	○	さりげなく見守りしている。利用者より外出の要望や動作等が見られた際には職員と一緒に散歩に出かけている。また、近所の方とふれあう事で理解や協力を図っている。				
(4)健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	職員全員で把握している。				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	利用者について感じた異常や変化は、些細な事でも介護記録に記入し残している。				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	○	診療所と円滑な関係が築けており、すぐに連絡が取れる体制が整っている。				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	○	本人、家族の希望する病院に受診する事が出来る。	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	○	本人、家族の希望に添った適切な医療を受けられるよう、かかりつけ医との関係を築いている。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	○	通院、受診の結果等、常に情報を職員間で伝達し共有している。				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	○	入院の際、本人に関する情報を書面や口頭で伝達している。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	○	定期的に訪問し、本人や家族、病院関係者との情報交換を行い、退院後の生活等相談にも努めている。				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	○	本人や家族の希望に添った医療を受けられるよう、日頃から病院関係者との関係を築いている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	○	変化に気付いた際には速やかに医師に相談、報告している。	/	/	/	
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	○	24時間相談出来る体制が整っている。	/	/	/	
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	○	医師と相談しながら、その人の状態に合った支援が出来る体制を整えている。	/	/	/	
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	○	利用者の薬歴表を確認し理解している。	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	薬のセットにミスがないよう徹底し、服用する際は見守りをして飲み忘れ、誤薬防止に努めている。	/	/	/	
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用（周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等）がないかの確認を日常的に行っている。	○	服用による変化がないか、常に利用者の日々の様子を注意深く観察している。	/	/	/	
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	利用者の状態の経過、変化を記録し、医師に情報提供している。	/	/	/	
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	○	入居時や状態変化の段階ごとに、本人、家族と話し合いを行い、意向に沿った支援が出来るよう方針を共有している。	/	/	/	開設以来26名の看取りを経験している。マニュアルは作成していないが、母体が医療機関であり、医師や協力的な家族とともに、安心して看取ることができている。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけではなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	○	職員、かかりつけ医、医療関係者と連携を図りながら、支援の方針を共有している。	◎	/	◎	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかを見極めを行っている。	○	終末期の対応について職員間で話し合い、適切な支援が行えるよう努めている。	/	/	/	
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	事業所のできること、できないことを説明し、支援について理解を得ている。	/	/	/	
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	状況に応じた支援や状態変化に大した専門的なケアが受けられるよう、連携を図り支援していく体制が整っている。	/	/	/	
		f	家族等への心理的支援を行っている。（心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等）	○	職員は家族の気持ちに共感、理解出来るよう努め、面会時、電話連絡時等に思いを聞いたりこちらから声をかけ、家族の支えになれるよう努力している。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	運営推進会や月例会にて感染症について学び、把握している。	/	/	/	
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	○	感染症対策についてのファイルを作成し、速やかに対応出来るよう体制を整えている。	/	/	/	
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	○	感染症についての最新情報を得られるよう、日頃から情報源に関心を向け、それを現場で活かす努力をしている。	/	/	/	
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	○	地域の感染症発生状況を把握し、随時対応している。	/	/	/	
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	○	職員、利用者、来訪者の手洗い、うがいの徹底に努めている。	/	/	/	
II. 家族との支え合い									
37	本人をともに支え合う家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	職員と家族が共に利用者を支えることを意識し、より良い関係作りに努めている。	/	/	/	お花見・納涼祭・運動会・忘年会があり、家族は利用者と一緒に過ごしている。行事については適宜お知らせし、家族と好ましい関係が築かれている。利用料金支払い時に現状を伝えたり、利用者自身に年賀状や暑中見舞を書いてもらい送付している。平素からどんな小さな事柄でも気さくに話してもらえるような関係作りができており、担当者は利用者の日々の生活を詳しく話している。職員の異動や退職は、担当者が変更になると同時に家族に知らせているが、十分伝わっていないこともあるため、伝達方法等を工夫する必要がある。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	気軽に来訪してもらえるよう、日頃からろり良い関係作りに努め、来訪時にはゆっくり過ごせるようお茶を提供し、自室や食堂にて過ごせるよう対応している。	/	/	/	
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	○	家族が参加出来る機会を定期的に設けている。	◎	/	○	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	○	家族の来訪時に近況を伝えたり、写真を見て頂き、日常の様子等を伝えている。また、手紙や行事の案内、写真も送付している。	◎	/	○	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的内容を把握して報告を行っている。	○	家族からも気軽に質問してもらえるよう配慮し、疑問や不安に的確に答えられるよう、注意深く思いを汲み取った上で報告を行っている。	/	/	/	
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	運営推進会で認知症についての理解を深める機会を設けたり、本人の思いを職員が代弁し伝えている。	/	/	/	
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	家族へその都度報告し、理解や協力を得ている。	x	/	△	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	○	行事や運営推進会への参加を働きかけ、家族同士が交流する機会を提供している。	/	/	/	
		i	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	○	家族に現状を話し、以後の対応策について説明している。	/	/	/	
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	○	些細な事でも気軽に相談できるように、定期的な連絡を行ったり来訪時に声かけを行っている。	/	/	○	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	○	契約時や内容変更があった場合等十分な説明を行い、理解、納得を得ている。	/	/	/	
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	退去時、契約内容に基づき十分な説明を行い、納得や理解をして頂いた上で退去先に移られるよう支援している。	/	/	/	
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	○	文書と説明で具体的に行っている。運営推進会議も利用しています。	/	/	/	
Ⅲ.地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	認知症になっても住み慣れた地域で住み続ける事ができるように説明し 理解してもらっている。	/	◎	/	「誰もが知っておりレオナに入居したら安心」を目標に、地域とかかわっている。紙祭りには灯籠を出している。運動会には近所の方も参加し、喜ばれている。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	○	地域のお祭りの参加や散歩時の挨拶、何気ない会話等から顔な馴染みの関係となっている。	/	◎	○	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	○	地域の方より声をかけてくれる事もある。	/	/	/	
		d	地域の人気が気軽に立ち寄ったり遊びに来たりしている。	○	行事等のポスター作りや声かけを行っている。	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	○	挨拶だけに留まらず、世間話等も出来る環境作りを行っている。	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	○	ふれあい相談員の方が定期的に来訪して下さり、行事への参加や会話を通し交流を深めている。	/	/	/	
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	○	地域の方とも交流を深めつつ、安心して暮らせるよう支援している。	/	/	/	
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	○	福祉施設のイベント参加や飲食店にて外食すしたり、買い物に出かけている。利用者行きつけの病院を利用する事もある。	/	/	/	
40	運営推進会議を活かした取組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	○	利用者、家族、地域の方が毎回参加している。	◎	/	◎	毎回利用者や家族、地域の方の参加が得られ、事業所の報告や職員の資質向上のための研修を行うなど、内容も充実しており、よりよいサービス向上のための支援に努めている。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	○	外部評価の内容、評価への取り組み状況についての報告、ネット上へも公開している事を伝えている。	/	/	○	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	○	会議の中での意見や相談を受け付けている。意見を取り入れた取り組みを実践し、結果報告を行っている。	/	-	○	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	○	テーマについて話し合う機会を作っている。メンバーが出席出来るよう勤務日になる工夫をしている。	/	-	/	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	○	報告書を作成し、公表している。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	理念について話し合う機会を持ち、理念が実践へ繋がるよう日々取り組んでいる。	/	/	/	
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	○	来訪時に目が届く場所に開示している。	○	○	/	
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	研修の機会をつくるように努めている。	/	/	/	健康で介護ができるよう定期検診を行っている。花火大会には職員家族の参加や打ち上げの懇親会も設けられている。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	スキルアップに繋がるよう、研修への参加を働きかけている。希望の研修へも参加出来るよう可能な限り機会を作っている。	/	/	/	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	働きやすい職場、継続して働ける職場になるように努めている。	/	/	/	
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	グループホーム交流会おへの参加を通し、勉強会や、ネットワークが広がるよう取り組んでいる。	/	/	/	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	普段からコミュニケーションを図り、意見を交わし合える環境を作っている。	◎	◎	◎	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	○	全員が高齢者虐待防止法について理解している。	/	/	/	今後も一人ひとりの職員が研修を重ねて学び、対応や方法についてより一層深めていくことが望まれる。職員は同年齢が多く、子育ての悩みも話し合え、余裕をもってケアに取り組んでいる。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	定期的に話し合う機会を作っている。	/	/	/	
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見過ごされることがないように注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	不適切なケアが行われていないかお互いに注意し合っている。もし発見した場の法に基づく手順も理解している。	/	/	/	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	職員の現状把握に努め、音大を抱える職員には個別ケアを行っている。	/	/	/	
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	身体拘束について正しく理解し、取り組んでいる。	/	/	/	
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	常に利用者のニーズに合わせられるように職員間で話し合うよう心がけている。	/	/	/	
		c	家族等から拘束や施設への要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	身体拘束を行わないケアへの取り組みを話し合い、理解を図っている。来訪時にも目のつく所に開示している。	/	/	/	
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを理解している。	○	内容については是認が理解している。	/	/	/	
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	○	新聞やパンフレットを利用して 介護相談を受け付けしている事も情報提供している。	/	/	/	
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	○	連携体制が整っている。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	救急マニュアルを作成し、職員全員が周知している。	/	/	/	
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	○	職員間で連携が取れるように努めている。	/	/	/	
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一步手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	ヒヤリハットを作成し、職員間で話し合いを行い再発防止に努めている。	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	リスク危険について検討し、事故防止に職員全員で取り組んでいる。	/	/	/	
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	適宜対応している。	/	/	/	
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	意見を頂いた際にhじゃ速やかな対応を心がけている。必要時には市役所窓口にも問い合わせしている。	/	/	/	
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	前向きに進むように話し合いを大事にしている。	/	/	/	
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	○	運営推進会議で話す機会を作っている。	/	/	○	日頃より利用者や家族からの要望や不安なことを聞き逃さないよう常に傾聴している。運営推進会議や面会時には、意見を言ってもらえるような和やかな雰囲気を作っている。ユニット合同の月例会や懇親会、日々のミーティングで意見を出し合い、利用者本位の支援につなげている。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	運営推進会議で意見を言いやすい関係を作りをしている。	○	/	○	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	案内している。	/	/	/	
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	○	運営推進会議に参加し直接意見を聞いている。	/	/	/	
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	利用者本位の支援について 運営推進会議で話し合っている。	/	/	○	
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	行っている。	/	/	/	サービス評価の結果や今後の取り組み内容について、家族への説明が不十分で内容等を理解できていない。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	○	評価を生かして見直しができていると思う。	/	/	/	
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	意識して取り組んでいる。	/	/	/	
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをもらっている。	○	運営推進会議で報告し 今後につなげている。	×	△	△	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	○	取り組み報告をしている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	○	災害時対応マニュアルを作成し、職員全員が周知している。	/	/	/	サービス評価の結果や今後の取り組み内容について、近隣住民が理解していない点も多く、地域との連携が不十分である。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	定期的に訓練を行い、対応出来る体制をとっている。	/	/	/	
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	定期的に行っている。	/	/	/	
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	○	運営推進会を通し、合同訓練を行いしえn体制を確保している。	○	○	△	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	○	地域性を考えて参加 行動している。	/	/	/	
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	○	認知症サポーターに参加している。	/	/	/	地域の困りごとや相談ごとに対する窓口を開設しているが、地域への周知が不十分で知らない住民等もあり、広報等を工夫する必要がある。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	○	窓口を開いている。	/	△	△	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	○	行事を開放して交流に活用したり 地域の行事に参加したりしている。	/	/	/	
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	○	協力している。	/	/	/	
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	△	地域活動に努力していきます。	/	/	△	

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I. その人らしい暮らしを支える

- (1) ケアマネジメント
- (2) 日々の支援
- (3) 生活環境づくり
- (4) 健康を維持するための支援

II. 家族との支え合い

III. 地域との支え合い

IV. より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
“愛媛県地域密着型サービス評価”

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成29年6月29日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 10名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	2名	

※事業所記入

事業所番号	3870800202
事業所名 (ユニット名)	グループホームレオナ 3階ユニット
記入者(管理者) 氏名	3Fユニット管理者 石川千寿子
自己評価作成日	2017年 6月 1日

(別表第1の2)

【事業所理念】 自分らしく生きていく・生きる喜びを感じられる生活にしていきたい・ありがとうが言い合える豊かな関係を作りたい・個性を尊重し人の嫌がる事をしない・地域社会の一員になる。	【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】 本人の希望や家族の希望をとり入れた介護計画にしてい。具体的にすることで介護計画が明確になり目標として取り組んでいます。	【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 穏やかで物事に真摯に取り組む姿勢の管理者の基、明るく上品な介護が展開されている。快い優しい言葉かけ、さりげない声掛けがたくさん見られ、落ち着いた利用者の笑顔が見られる。希望や生きる喜びの感じられる事業所には、心豊かで感謝に満ちた空間が広がっている。利用者を尊重し、職員同士仲良く助け合ってケアする姿は見ていて微笑ましく自慢できる。
--	--	--

評価結果表

【実施状況の評価】

◎よくできている ○ほぼできている △時々できている ×ほとんどできていない

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I. その人らしい暮らしを支える									
(1) ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	一人ひとりの方の意向を聞き、希望にそえるように努めている。	◎	/	◎	懐かしい思い出話を聴く中で、本来の思いや望みの話につながる事が沢山ある。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	話し合いをして検討している。	/	/	/	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	話し合っている。	/	/	/	
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	記録をし共有化している。	/	/	/	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	声掛け等で本人の意思を確認するようにしている。	/	/	/	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	本人や周りの方から話を聞いている。	/	/	◎	家族や友人そして、利用者の些細な言葉や職員が気づいたことも含め把握している。不安に思っていることも大切に聞いている。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	現状の把握に努めている。	/	/	/	
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	○	見守りをしながら把握に努めている。	/	/	/	
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかわり等)	○	声掛けし、状況を把握している。	/	/	/	
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	○	一人ひとりの日々の変化や違いに気を付けている。	/	/	/	
3	チームで行うアセスメント (※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	本人の視点で考えている。	/	/	◎	常に利用者本位の視点で、3か月に1回の介護計画見直し時も含め、意見を出し合いチームで共有している。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	○	話し合いをしている。	/	/	/	
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	○	明らかにしている。	/	/	/	
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	見直しをしながら暮らしやすい内容にしている。	/	/	/	利用者が職員に直接話せないことも、月1回訪問のある市のふれあい相談員を通じ情報を得て、介護計画の作成に活かしている。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	家族にも意見を聞いて作成している。	○	/	◎	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	重度利用者、その人に合わせた内容にしている。	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	△	地域の方の協力はない。	/	/	/	

5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	◎ 共有している。		◎	ケアチェック表に計画書をファイルし確認している。記録内容は毎月要約して利用者の状態についてまとめ、アセスメントとして利用している。特に、利用者の言葉は言われた通り記録に残しており、役立っている。入居が長くなると、家族より職員の方が利用者個々の様子を把握できており、がよくわかる。感じて知ったことを思案し、良い方向になるよう考え記録している。	
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	◎ ケアチェック表を活用している。		◎		
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	◎ している。		◎		
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	◎ モニタリングを月1回している。		◎		
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じた見直しを行っている。	◎ している。		◎	利用者が何を求め必要としているか考え見直している。記録を基に、月1回まとめている。緊急性の高いものは、即時話し合い変更している。	
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	◎ 月1回、経過記録を記入している。		◎		
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	◎ している。		◎		
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	◎ している。		◎	母体医療機関の医師も参加のケア会議を定期的で開催し、職員で話し合っており、不参加の職員には職員2名で申し送りを行い、伝達事項の漏れがないよう徹底し職員全員で共有し、利用者本位のケアのため万全を期している。	
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	◎ している。				
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	◎ 前もって連絡し、全員参加が基本となっている。				
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	◎ 報告書を作成している。		◎		
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	◎ 共有し、印を押すようにしている。		◎	職員の交替時の申し送りがきちんと行われている。	
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	◎ している。	○			
(2)日々の支援								
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切に支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	◎ 一人ひとりの方とコミュニケーションを取り、したいことを把握し、叶えられるように努めている。			「飲み物は何がいいですか?」とか外食のメニューの選択など機会を見て自己決定する場面を作っている。「一緒に喜び笑い合える人とのつながりを大切にする」ユニットの理念に沿って、テレビを見ている時も食事中も声かけを欠かさず生き生きとした生活を支援している。	
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	◎ 些細な事も意見を聞き、なるべく自己決定が出来るように支援している。				◎
		c	利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	◎ 本人の意思を聞き、その人にあつた支援をするように努めている。				
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切に支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○ 声掛け等を行い、本人のペースや習慣で過ごせるように支援している。				
		e	利用者の生き生きとした言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	○ 冗談を言い合ったりし、明るい雰囲気を作るように努めている。				◎
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそつた暮らし方ができるように支援している。	○ 些細な事にも注意を向け、意向に沿つた暮らしができるように支援している。				

10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切に言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	○ 利用者さんの気持ちやプライバシーに配慮した声掛けや対応ができるように努めている。	◎	◎	◎	職員は接遇の研修を受け、プライバシーの確保についてもよく理解し、〇〇と思われます。と理解し、利用者を尊敬するかかわりが続いている。ゆっくり優しい口調で上品に感謝の気持ちを込めて声かけしている。出入口を解放したままの方が落ち着く人もいるが、基本的にはノックして入室している。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉かけや対応を行っている。	○ 利用者さんの立場にたった対応やさりげない声掛けをするように努めている。			◎	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮ながら介助を行っている。	○ 気を配り、不安なく安心できるように支援している。				
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○ プライバシーに配慮し、声掛け等を行っている。			◎	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	◎ 理解し、遵守している。				
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けってもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	◎ 希望や励みが持てるように支援し一緒に喜び感謝しあえる関係性に努めている。				利用者同士の相性を大切に、心地よく過ごしてもらえるような席の配置をするなど配慮している。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	◎ 理解している。				
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	○ 利用者同士関わり合いを持てるように努めている。			◎	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○ 安心して過ごせるように努めている。				
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	○ 把握に努めている。				
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	○ 把握するようになっている。				
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	○ できる範囲で支援している。				
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	◎ 気軽に来やすいように声掛けをしたりゆっくり過ごしてもらうようになっている。				

13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない) (※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	○ 近くを散歩したり外出に行ったり、外に出られる機会を作るように取り組んでいる。	○	◎	◎	近くの寺社や無人の野菜販売所への買い物、園芸店へ散歩に出かけている。季節感を大切に車椅子での外出にも力を入れている。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	△ スタッフのできる範囲でしているが、今後協力も得られるように努めたい。	/	/	/	
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	◎ 取り組んでいる。	/	/	◎	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	◎ 希望を聞き、協力しながら色々な所に出かけられるように支援している。	/	/	/	
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	◎ 一人ひとりの状態の把握に努め、話し合いケアを行っている。	/	/	/	「出来ること出来ないシート」には、担当職員が利用者自身の立場で私のできること、できそうなことを記録し、共有し活かしている。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	◎ 無理のない程度に体操や散歩、食器拭き、口腔体操等を生活の中に取り入れて支援している。	/	/	/	
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	◎ できる事や出来そうな事は、なるべく見守り、してもらうように支援している。	○	/	◎	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○ 把握に努めている。	/	/	/	元の職業や特技や趣味を知り、出番や役割りにつなげている。運営推進会議では、利用者からおふくろの味など昔の思い出話を聞き、他の参加者には好評であった。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○ 役割や出番を作り、励みを持って生活できるように支援している。	◎	◎	◎	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	○ 支援に努めている。	/	/	/	
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つとらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	◎ 把握し、その人にあった支援をしている。	/	/	/	ひげそりはまず自分でさわって、鏡を見て納得してもらってから行っている。おしゃれな人は、いろいろカタログと一緒に見て、好みの柄を選び新しいものに取り換えている。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みを整えられるように支援している。	◎ 本人の意思を尊重し、支援している。	/	/	/	
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○ 本人の気持ちに沿った支援に努めている。	/	/	/	
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせたその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○ 支援に努めている。	/	/	/	
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にさりげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○ 本人の立場にたち、さりげなく支援している。	◎	◎	◎	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるよう努めている。	◎ 努めている。	/	/	/	
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	◎ 行っている。	/	/	/	

17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	<input type="radio"/> 理解している。					
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	<input type="radio"/> できる範囲で行っている。					◎
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	<input type="radio"/> できる範囲でみんなで分担して行っている。					
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	◎ 把握している。					
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	◎ 利用者の好み等を把握し、旬のものを取り入れるようにしている。					◎
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いんどりや器の工夫等)	◎ 工夫している。					
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	◎ 自宅からなじみの物を持ってきてもらったり、気に入った物を使用している。					◎
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	◎ 行っている。					◎
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	<input type="radio"/> 会話の中に取り入れている。			○		◎
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	◎ 確保できるように支援している。					
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	◎ 低栄養や脱水にならないようにその日の水分量や食事を把握し、支援している。					
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	<input type="radio"/> 話し合い、配慮している。					◎
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	◎ 努めている。					
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	◎ 理解している。					
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	<input type="radio"/> 把握している。					◎
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	◎ 学ぶ機会を設けて支援に活かしている。					
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	◎ 支援している。					
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	◎ 日常的に支援している。					◎
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医に受診するなどの対応を行っている。	◎ 対応している。					

利用者は下準備や食器を拭くなどできる作業を手伝っている。献立は利用者の知恵も借り、味付けの好みも利用者をお願いしている。たけのこ・空豆・びわなどその季節を感じさせる食材を潤沢に用い、利用者の嗜好に合わせた内容にしている。軽くて持ちやすいもの、茶碗のサイズを変えたいときや破損した時は、家族の協力を得ている。優しく、明るく、穏やかに、利用者が手伝ってくれたことを盛んにほめ、感謝を伝え、見守りながら食事している。体調の良い時は、共有空間で過ごすこともあり、調理の様子を見たり、においを感じたりしている。ほかの利用者に気を付けて話しかけてもらい、重度な状態でも食事を美味しくいただくことができる。1週間を1単位にメニューを考え、バランスのとれた内容になるよう工夫している。手間をかけた心のもったメニューを心掛けている。

口腔アセスメント票には①歯の状態と口腔衛生からのアセスメント②口腔衛生自立度からのアセスメント③食事状況からのアセスメントなど細かく把握している。食後の歯磨きは声かけし、できない人は職員が介助している。入歯の手入れも欠かさずに行っている。

19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○ 理解している。					運営推進会議に企業の専門家を講師に招き、パットおむつの適切性について話を聞くなどし、一人ひとりに適した支援をしている。	
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○ 理解している。						
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	◎ 記録し、把握に努めている。						
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	◎ 状態を把握し、支援に努めている。	◎			◎		
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○ 取り組んでいる。						
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	◎ 行っている。						
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○ 支援している。						
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	◎ 話し合い、使い分けている。						
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	◎ 個々の状態に応じ、運動や青汁を飲んでもらうなどしている。						
		20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)。	△ 入浴時間は、決まっているが、できる範囲内で要望に応えられるように支援している。	◎			
b	一人ひとりが、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。			◎ ゆっくり入浴できるように支援している。						
c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。			○ 声掛けをしながらできる事は、してもらい安心して入浴できるように努めている。						
d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ち良く入浴できるよう工夫している。			○ 声掛け等工夫している。						
e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。			○ その日の状態を確認して見極めている。						
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	◎ 記録を取り、把握している。					薬に頼らない方針で寝る前にホットミルクを飲んだり、家族差し入れのおやつを食べたりして安眠できるよう工夫している。投薬については医師の処方のもと行っている。	
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	◎ 日中の活動を増やしてみたり工夫をして安眠できるように取り組んでいる。						
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○ 十分に検討し、総合的な支援をしている。				◎		
		d	休息や昼寝等、心身を休める場が個別に取れるよう取り組んでいる。	◎ 取り組んでいる。						

22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	◎	支援している。				
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	◎	声掛け等を行い支援している。				
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	配慮している。				
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	◎	返信をする等している。				
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力してもらおうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	している。				
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	理解している。				
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	○	つくっている。				
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	△	パンの訪問販売を利用している。				
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」など一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	○	管理は、スタッフがしているが機会をつくって手渡ししている。				
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	家族には、金銭管理表で報告している。				
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	○	出納帳に説明し、サインしてもらっている。				
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々々のニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	△	訪問マッサージの利用を以前していた。	◎	○	臨機応変に利用者や家族のニーズに対し歩み寄りながら、会議等で協議し実現に向け取り組んでいる。	
(3)生活環境づくり									
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	花を植え、飾っている。	◎	△	◎	隣が母体の医療機関となっており、簡単に気さくに出入りできる。作品を並べたり、本棚には数々の絵画や書物があり、立ち寄りたくなる。
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものしか置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	○	心地よい空間になるようにソファや畳等努力している。	○	◎	◎	居間の横が台所になっており、調理のにおいに利用者の食欲が増す。CDの曲が流れ、レクリエーションをしている。ベランダには、トマト・ピーマン・きゅうりが植えられ、風通しが良く、清潔感に満ち溢れている。心のこもった感動できるアイデア、工夫いっぱいの飾りが沢山あり、どれをとっても丁寧で、深く心に残る作品ばかりである。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	◎	掃除は、しっかりしている。				
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	花を飾ったり、行事に合わせた飾りをしている。				
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	個室がある。廊下にもソファを置いている。				
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないよう工夫している。	◎	見えていない。				

27	居心地良く過ごせる居室の配慮	本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○ タンス等使い慣れた家具を持ってきてもらっている。	◎	◎	天井が高く明るく広々としている。塗り絵・習字・鏡台・写真・手紙・時計があり、一人ひとりにとってほっとできる空間を作っている。	
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○ 危険なものを置いたりせず、個人に分かりやすく部屋表示している。		◎	「生活の自立」を目標とし、「できること」「わかること」をきちんと把握したうえで、職員は適切な声かけや誘導、見守りを行っている。
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	○ 共用空間には、部屋を表示し、分かりやすくしている。			
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	◎ お花が好きな方は、ベランダで育てていたり、編み物が好きな方には、する機会を作っている。			
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	◎ 玄関は、夜間は、防犯のため鍵をかけているが居室や共有スペースなどは、鍵はしておらず自由に出入りができている。	◎	◎	職員は、鍵をかけることで利用者に与える精神的苦痛等について共有しており、利用者が一人で外出しないよう見守っており、外出の際は職員と一緒に出かけている。また、家族には施錠を行わないケアの取り組みや工夫等について説明し理解を得ている。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	○ 現在、施錠を望む家族はいないが今後そのような時は、対応に努めていきたい。			
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	◎ 日中は、鍵はしていない。			
(4)健康を維持するための支援							
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	◎ 把握している。			
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	◎ 注意し、変化があれば記録し、主治医に報告している。			
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	◎ 気になることがあれば報告している。			
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	◎ 入所時に確認し、家族や本人の意向を尊重している。	◎		
		b	本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	◎ 希望を大切にし、適切な医療を受けられるように支援している。			
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	◎ 必要に応じて行っている。			
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	◎ 行っている。			
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	◎ 努めている。			
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	○ 行っている。			

33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎ 主治医にその都度報告している。					
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	○ 24時間対応できている。					
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	◎ 毎日のバイタルチェックを行い健康管理や異常を発見している。					
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	◎ 薬歴表を確認し薬剤状況を理解している。					
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	◎ 日付、名前の確認。内服の確認をしている。					
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	◎ 体調の変化がないか毎日確認している。					
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	◎ 体調の変化に気づき、異常があれば医師に報告している。					
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	◎ 入所時には、家族に確認している。状態変化の段階で家族、医師と相談している。					
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	◎ しています。	◎		◎		
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかを見極めを行っている。	◎ 皆で話し合っている。					
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	◎ 入所時に説明し、理解して頂いている。					
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○ 必要に応じて主治医に相談し家族の意向を含めた対応について話し合っている。					
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	△ 信頼関係を作る所に重点をおいて そこから始めて話してもらえようように努力している。					

開設以来26名の看取りを経験している。マニュアルは作成していないが、母体が医療機関であり、医師や協力的な家族とともに、安心して看取ることができている。

36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○ 月例会にて議題に取り上げ、定期的に学んでいる。			
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	△ 対策や予防は、行っているが訓練は行っていない。			
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	○ 医療機関などからの情報は、取り入れている。			
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	○ 流行の時期には、手洗い、うがいなどに努めている。			
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	◎ している。			

II. 家族との支え合い

37	本人をともに支え合う家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○ 行事などに来て頂いたり、いつでも面会に来てもらえるような関係を築いている。			
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	◎ できている。			
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	◎ 行っている。	◎		◎
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	◎ 行事等日常生活の写真などや年賀状や暑中見舞いなどを送っている。	◎		◎
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的内容を把握して報告を行っている。	○ 行っている。			
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○ 家族からこれまでの本人のことを聞いたり、適切な接し方ができるように努めている。			
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○ 職員からは言っていない。	x		◎
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	○ 運営推進会に参加して頂いたり、行事にも声をかけている。			
		i	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	○ 月例会などリスクについて話題を出し合い話し合っている。			
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	○ 来訪時に出来事などを話すように心がけている。			◎

お花見・納涼祭・運動会・忘年会があり、家族は利用者と一緒に過ごしている。行事については適宜お知らせし、家族と好ましい関係が築かれている。利用料金支払い時に現状を伝えたり、利用者自身に年賀状や暑中見舞を書いてもらい送付している。平素からどんな小さな事柄でも気さくに話してもらえるような関係作りができおり、担当者は利用者の日々の生活を詳しく話している。職員の異動や退職は、担当者が変更になると同時に家族に知らせているが、十分伝わっていないこともあるため、伝達方法等を工夫する必要がある。

38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	<input type="radio"/>	理解して頂けるように わかりやすい言葉で 具体的に行っている。				
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	<input type="radio"/>	身内の住む遠方の施設に移動する場合など 連携を取り合い介護保険サービスが滞りなくすすむように支援している。				
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	<input checked="" type="radio"/>	文書を作成し、説明をしている。				

Ⅲ.地域との支え合い

39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	<input type="radio"/>	理解を図っている。				
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	<input checked="" type="radio"/>	行事の案内をしたり日頃から挨拶をしたりと交流を深めている。			<input checked="" type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	<input type="radio"/>	増えているかは分からないが、協力してくれている人は多い。				
		d	地域の人気が気軽に立ち寄ったり遊びに来たりしている。	<input checked="" type="radio"/>	来てくれている。				
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	<input checked="" type="radio"/>	している。				
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	<input checked="" type="radio"/>	定期的に傾聴ボランティアさんに来てもらっている。				
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	<input type="radio"/>	支援に努めている。				
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	<input checked="" type="radio"/>	近所のお店や美容院に行ったりしている。				

「誰もが知っておりレオナに入居したら安心」を目標に、地域とかがわっている。紙祭りには灯笼を出している。運動会には近所の方も参加し、喜ばれている。

40	運営推進会議を活かした取組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	<input checked="" type="radio"/>	あります。		<input checked="" type="radio"/>		
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	<input type="radio"/>	している。			<input checked="" type="radio"/>	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	<input type="radio"/>	努めるように努力している。			-	<input checked="" type="radio"/>
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	<input checked="" type="radio"/>	している。			-	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	<input checked="" type="radio"/>	している。				

毎回利用者や家族、地域の方の参加が得られ、事業所の報告や職員の資質向上のための研修を行うなど、内容も充実しており、よりよいサービス向上のための支援に努めている。

IV.より良い支援を行うための運営体制					
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	◎ 話し合い、理念を作り、目のつく所に貼ってある。	
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	○ 伝えられるように努めている。	○ ○
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	◎ 取り組んでいる。	
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○ 取り組んでいる。	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	◎ 努めている。	
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	◎ 交流会に参加するなどしている。	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	◎ 取り組んでいる。	◎ ◎ ◎
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	◎ 理解している。	
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	◎ つくっている。	
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないように注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○ 知っている。	◎
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○ 体調を気遣う声かけをしてくれている。	
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○ 理解している。	
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○ つくっている。	
		c	家族等から拘束や施設への要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	◎ 拘束は、行っていない。	
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを含め理解している。	△ これからもっと学んでいきたい。	
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	○ 行っている。	
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	○ 築いている。	

健康で介護ができるよう定期検診を行っている。花火大会には職員家族の参加や打ち上げの懇親会も設けられている。

今後も一人ひとりの職員が研修を重ねて学び、対応や方法についてより一層深めていくことが望まれる。職員は同年齢が多く、子育ての悩みも話し合え、余裕をもってケアに取り組んでいる。

46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○ している。				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	○ 講習を受けている。				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一步手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	◎ 努めている。				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	◎ 取り組んでいる。				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	◎ 月例会で話し合っている。				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○ している。				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	◎ 行っている。				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	◎ つくっている。				◎
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	◎ つくっている。	○			◎
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○ 行っている。				
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	◎ つくっている。				
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	◎ している。				◎
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	◎ 取り組んでいる。				
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	◎ 評価後の話し合いなどよい機会になった。				
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	◎ 取り組んでいる。				
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	○ モニターは、今後する。		×	△	◎
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	◎ 会議の議題としてできた。				

日頃より利用者や家族からの要望や不安なことを聞き逃さないよう常に傾聴している。運営推進会議や面会時には、意見を言ってもらえるような和やかな雰囲気を作っている。ユニット合同の月例会や懇親会、日々のミーティングで意見を出し合い、利用者本位の支援につなげている。

サービス評価の結果や今後の取り組み内容について、家族への説明が不十分で内容等を理解できていない。

50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	◎ マニュアルは、あり、定期的に話し合いをしている。				サービス評価の結果や今後の取り組み内容について、近隣住民が理解していない点も多く、地域との連携が不十分である。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○ 夜間と日中と行っている。				
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○ 担当が行っている。				
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	○ 運営推進会で行った。	○	○	◎	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	○ 地域の防災の日の行事に行った。				
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	○ 認知症サポーターに参加している。				地域の困りごとや相談ごとに対する窓口を開設しているが、地域への周知が不十分で知らない住民等もあり、広報等を工夫する必要がある。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	○ 希望があれば行っている。		△	◎	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	○ ここではしていないが、出向いている。				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	○ 職場体験をしている。				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	△ 今後勉強していきたい。			◎	